

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立白鷗高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 教務部主任（事務局長）、教務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長（中・高各1名）、開発部主任（中・高各1名）、教務部主任（中・高各1名）、生徒部主任（中・高各1名）、進路指導主任（中・高各1名） 計11名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
学識経験者（安田教育研究所代表幹事）、教職員総合健康センター訪問員、双鷗会会長、
双鷗会副会長2名、鷗友会理事長、後援会理事長、近隣中学校長、近隣小学校長、
元浅草三丁目町会長、七軒町会長、蔵前警察署生活安全課課長代理 計12名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年6月9日（水）内部委員11名、協議委員10名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、次年度以降の校舎改築に伴う学校教育活動への影響について
本校の現状と課題等説明、意見交換、生徒のメンタルヘルスやいじめ対策について意見交換
 - 第2回 令和3年11月25日（木）内部委員11名、協議委員8名
これまでの教育活動に関する報告、今年度の行事に関する質疑
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議、新教科の説明等
 - 第3回 令和4年2月16日（水）内部委員11名、協議委員7名
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年6月9日（水）内部委員5名、協議委員1名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和3年11月25日（木）内部委員5名、協議委員1名
アンケート項目の確認、集計・分析方法など課題の整理
 - 第3回 令和4年2月16日（水）内部委員5名、協議委員1名
アンケート結果の分析、課題点の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・2月 全校生徒 対象：1162人 回収：1032人 回収率：88.8%
 - ・2月 保護者全員 対象：1162人 回収：866人 回収率：74.5%
 - ・2月 教職員 対象：68人 回収：68人 回収率：100%
 - ・本校に入学して良かった。
 - ・進学指導を重視した教育が実践されている。
 - ・授業に満足している。
 - ・教育課程は生徒の進路希望に応えるように編成されている。
 - ・補習・補講・講習は十分に実施されている。
 - ・生徒会活動は十分に実施されている。
 - ・先生は生徒の質問や相談によく応じてくれる。
 - ・生活指導は適切に行われている。
 - ・学校は体罰やいじめを許さない姿勢で積極的に取り組んでいる。
 - ・部活動に対して満足している。
 - ・勉強と部活動の両立はできている。

- ・学校行事に満足している。
- ・施設・設備は、学習環境として満足できる。
- ・本校は地域に協力して役立っている。
- ・オンラインの学習指導に満足している。
- ・感染予防対策は適切に行われている。
- ・業務の効率化によりライフ・ワーク・バランスの実現を図っている。

(3) 評価結果の概要 (校長や学校全般への意見・提言内容)

- ・学習活動にはおおむね満足している様子がうかがえるが、トイレや体育館の改修、改築など、改善された部分があるにも関わらず、いまだ施設設備の老朽化に対する要望が多い。さらなる計画的な対応が必要である。
- ・国際色豊かな学校への変革に向け、学校経営計画や平素の学習活動等を通じて学校側のメッセージをさらに明確に伝える工夫が必要。
- ・ほとんどの項目で保護者・生徒の理解は得られているが、個別の自由意見では厳しい意見もあり、教育課程や一部の教員の指導力についてはPDCAの視点を持った早期の対策が必要である。
- ・「学校行事に満足している。」「勉強と部活動の両立ができています。」という評価で、評価しない生徒数が増加しているが、一昨年度の評価が悪くなかったことを考えると、本校の活動に不満を持っているというより、コロナ渦において、活動が制限されていることに対する生徒の心情を反映しているものと考えられる。

(4) 評価結果の分析・考察 (校長や学校全般への意見・提言)

- ・学校生活に対する理解や方向性は間違っていない。しかし全員が満足できる状況ではなく、個別対応の必要性も考えられるが、学校としての方針を明確に示しながら生徒の自己実現のために繰り返し説明や指導を行うことが大切である。
- ・学年毎の集計結果を提示し、各学年が抱えている必ずしも肯定的でない評価についての分析とその要因について検討する必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題 (学校の自己評価へ反映)

(1) 学校運営

- ・生徒に対して、学校の教育方針や教育方策を徹底するとともに、国際色豊かな学習環境を整える学校としての目標を明確化する。
- ・生活指導は、組織的な指導を実施して教員間の差を減少させ、より一層規範意識を醸成する。
- ・教職員が一致団結して学校の目標達成や生徒の自己実現に向けた努力を行う。

(2) 学習指導

- ・年間授業計画の充実をはじめ、自学自習や学習習慣を生かした指導を継続し、補習など個別対応をさらに充実させる。

(3) 特別活動

- ・生徒会を中心に自主的な活動を目指す。
- ・東京体験スクールなどの実施による国際理解教育の充実を図る。

(4) 生活指導

- ・規範意識を定着させ、正しい判断が行えるよう指導をさらに充実させる。

(5) 進路指導

- ・各生徒の進路希望を実現させるために、チーム難関大を充実させ、教務部や担任だけでなく全教職員が協力し生徒の進路実現を支援する。

(6) 健康・安全

- ・感染症対策のみならず、生活安全はもとより交通安全や災害安全についても繰り返し指導する。

5 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

6 その他

- ・近隣住民の本校の教育活動についての認知度は高いとは言えない。新型コロナウイルス感染症による自粛が解除されたら、依然と同様に、地域行事へ積極的に参加し、中高とも町会長を通じた広報活動をさらに充実していく。